

純粹理性批判 〈1〉



[純粹理性批判 〈1〉 下载链接1](#)

著者:イマヌエル カント

出版者:光文社

出版时间:2010-1-13

装帧:文庫

isbn:9784334751982

カントは従来の形而上学が陥った独断的なやり方を批判し、人間のもつ理性の可能性とその限界をみさだめる。空間とは何か、時間とは何か、認識はどのようにして成り立つのかを明らかにする。古代以来の哲学の難問を解決しようとした意欲的な試みを再現する。

「もう入門書はいらない!」

ついに『純粹理性批判』の刊行開始です。カントの主著であり、西洋哲学における最高かつ最重要の哲学書です。難解とされる多くの用語を、ごく一般的な用語に置き換えて分かりやすさを徹底した画期的な新訳。詳細な解説つき。全7巻。

解説と合わせてじっくり読めば、きっとカントの思考の道筋が見えてくるはずです。

作者紹介:

中山 元（なかやま げん、1949年 - ）は、日本の哲学者、翻訳家。

東京都生まれ。東京大学教養学部教養学科中退。インターネットの哲学サイト「ポリロゴス」を主宰。多くの哲学書を翻訳している。

著書:

『フーコー入門』ちくま新書 1996

『思考の用語辞典』筑摩書房 2000／ちくま学芸文庫 2007

『書くためのデジタル技法』二木麻里共著 ちくま新書 2001

『新しい戦争? 9・11テロ事件と思想』冬弓舎 2002（ポリロゴス・ブックレット 1）

『〈ぼく〉と世界をつなぐ哲学』ちくま新書 2004

『はじめて読むフーコー』洋泉社新書y 2004

『高校生のための評論文キーワード100』ちくま新書 2005

『思考のトポス 現代哲学のアポリアから』新曜社 2006

『賢者と羊飼い フーコーとパレーシア』筑摩書房 2008

『フーコー生権力と統治性』河出書房新社 2010

『フーコー思想の考古学』新曜社 2010

『正義論の名著』ちくま新書 2011

『ハンナ・アーレント 〈世界への愛〉 その思想と生涯』新曜社 2013

『自由の哲学者カント カント哲学入門「連続講義」』光文社 2013

『フロイト入門』筑摩選書 2015

『アレント入門』ちくま新書 2017

翻訳:

コリン・ウィルソン『殺人狂時代の幕開け』二木麻里共訳 青弓社 1994

コリン・ウィルソン『情熱の殺人』二木麻里共訳 青弓社 1994

コリン・ウィルソン『殺人の迷宮』二木麻里共訳 青弓社 1994

コリン・ウィルソン『猟奇連続殺人の系譜』二木麻里共訳 青弓社 1994

J.バーナウアー『逃走の力 フーコーと思考のアクチュアリティ』彩流社 1994

ペギー・リーヴズ・サンデイ『聖なる飢餓 カニバリズムの文化人類学』青弓社 1995

エマニュエル・レヴィナス『超越と知解可能性 哲学と宗教の対話』彩流社 1996

ジークムント・フロイト『自我論集』竹田青嗣編 ちくま学芸文庫 1996

フロイト『エロス論集』(編訳) ちくま学芸文庫 1997

ミシェル・フーコー『精神疾患とパーソナリティ』ちくま学芸文庫 1997

『メルロ＝ポンティ・コレクション』(編訳) ちくま学芸文庫 1999

フーコー『真理とディスクール パレーシア講義』筑摩書房 2002

『発言 米同時多発テロと23人の思想家たち』編訳 朝日出版社 2002

オギュスタン・ベルク『風土学序説
文化をふたたび自然に、自然をふたたび文化に』筑摩書房 2002

ニコラス・ファーン『考える道具』角川書店 2003

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分 有用性の限界』ちくま学芸文庫 2003

スティーブン・ロー『フィロソフィー・ジム
「考える脳」をつくる19の扉』ランダムハウス講談社 2003

ロジェ＝ポール・ドロワ、ジャン＝フィリップ・ド・トナック『ギリシア・ローマの奇人たち 風変わりな哲学入門』紀伊國屋書店 2003

エレン・メイクシンス・ウッド『資本の帝国』紀伊國屋書店 2004

バーナード・ルイス『聖戦と聖ならざるテロリズム
イスラームそして世界の岐路』紀伊國屋書店 2004

ジャック・デリダ『パピエ・マシン』ちくま学芸文庫 2005

イマヌエル・カント『永遠平和のために・啓蒙とは何か』光文社古典新訳文庫 2006

スティーブン・ロー『北極の北には何がある？
「考える脳」をつくる哲学トレーニング19』ランダムハウス講談社 2006

『考える力をつける哲学問題集』ちくま学芸文庫 2013

ハンナ・アーレント『責任と判断』ジェローム・コーン編、筑摩書房
2007／ちくま学芸文庫 2016

フロイト『幻想の未来 文化への不満』光文社古典新訳文庫 2007

フランシス・ウィーン『マルクスの『資本論』』ポプラ社（名著誕生） 2007

クリストファー・ヒッチンス『トマス・ペインの『人間の権利』』ポプラ社（名著誕生） 2007

モーリス・ブランショ『書物の不在』月曜社 2007

フロイト『人はなぜ戦争をするのか エロスとタナトス』光文社古典新訳文庫 2008

ルソー『人間不平等起源論』光文社古典新訳文庫 2008

ルソー『社会契約論・ジュネーヴ草稿』光文社古典新訳文庫 2008

フーコー『わたしは花火師です フーコーは語る』ちくま学芸文庫 2008

ライダー・デュー『ドゥルーズ哲学のエッセンス 思考の逃走線を求めて』新曜社
2009

マックス・ウェーバー『職業としての政治／職業としての学問』日経BP社 2009

ニーチェ『善悪の彼岸』光文社古典新訳文庫 2009

ニーチェ『道徳の系譜学』光文社古典新訳文庫 2009

マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』日経BP社
2010

カント『純粋理性批判』（全7巻＋別巻）光文社古典新訳文庫、2010-2012

『フロイト文学・思想論集』光文社古典新訳文庫、2011

フロイト『ドストエフスキーと父親殺し』光文社古典新訳文庫、2011

マルクス『資本論 経済学批判』（第1期全4冊）日経BP社、2011-2012

カント『道徳形而上学の基礎づけ』光文社古典新訳文庫、2012

カント『実践理性批判』（全2巻）光文社古典新訳文庫、2013

マルクス『ユダヤ人問題に寄せて／ヘーゲル法哲学批判序説』光文社古典新訳文庫、2
014

ポール・ジョンソン『ソクラテス われらが時代の人』日経BP社 2015

マルティン・ハイデッガー『存在と時間』（全8巻）
光文社古典新訳文庫、2015ー刊行中

目録: 序論(純粋な認識と経験的な認識の違いについて

わたしたちはアприオリな認識を所有していること、日常的な知性の利用にもア
プリオリな認識が含まれないわけではないこと
哲学には、すべてのアプリオリな認識の可能性、原理、範囲を規定する学が必要であ
る
分析的な判断と総合的な判断の違いについて
理性に基づくすべての理論的な学には、アプリオリな総合判断が原理として含まれる
純粋理性の普遍的な課題
純粋理性批判と呼ばれる特別な学の理念と区分)
第1部 超越論的な原理論(超越論的な感性論(空間について
時間について))
序文(第二版)
．．．．． (收起)

[純粋理性批判〈1〉_下载链接1](#)

标签

认识论

形而上学

康德

哲学

评论

[純粋理性批判〈1〉_下载链接1](#)

书评

国人研究康德，按贺麟先生的说法：“张铭鼎是我国20-30年代“最初搞康德哲学的人

物”。张先生1924年在《学艺》杂志上发表了《康德学说的渊源与影响》，第二年又在《民铎》“康德专号”上发表了《康德批判哲学之形式说》，对康德哲学作了一个比较系统的介绍，他认为康德三大...

好吧，为了往我的小组拉人来发“评论”，我虽然是念哲学的，而且是研究生，但是不一定毕得了业，各位认清。这是课程作业的节选，好歹每日每夜读过一整个夏天，用全人类的智慧来武装自己，我可是尝试过的。以下是正文
在导论中康德就明确表态这部书是具有普遍必然有效性的...

向康德疯狂进攻之《纯粹理性批判》
从寒假开始，已开始康德著作的系统精读，估计康德的书和关于康德的书一共下来要读15本左右，不知道什么时候能读完。手头现有的康德资料不多但基本完整。有：1、邓晓芒译康德的《纯粹理性批判》、《实践理性...

康德的哲学统治了整个十九世纪的思想，属于德国古典哲学开宗立派的人物。此线直接的后继者为费希特、谢林，至黑格尔达到顶峰。然而康德哲学的影响力远不止仅仅局限于德国古典哲学。哲学史上有个非常流行的说法：康德哲学是“蓄水池”。以前的哲学流向康德...

商务印书馆出过不少好书，不过在西学方面，有时候很自恋，常常敝帚自珍，把一些当年宝贝、如今破烂拿出来重印以提高“逼格”。
这套汉译世界学术名著丛书中很有一部分书即如此。尤以蓝公武翻译的《纯粹理性批判》为典型。市面上那么多译本，忠实于原著的、更流畅的有好多，想...

岁月流逝，但有些阅读体验会在你的生命中留下不可磨灭的印记。
记得那时才十八九岁，刚进大学，在那满怀憧憬而又懵懂彷徨的青春岁月里，开始思考起人生的价值和方向。有三本书对自己今后的思想发展产生了深远的影响——
马克思的《1844年经济学哲学手稿》，席勒的《审美教育...

坏的哲学会使人走向堕落，好的哲学会使人走向迷茫。
但康德的哲学不会，用批判的眼光去分析问题往往会造成偏见与不解，但真理却往往蕴含其中，通读全书，也会你会一头雾水，但更有可能的是你更加清楚地看清了许多原本

用近一年时间来阅读此书，今日读完。原先的那个问题路径由此愈发明显，而且也愈发清晰地认识到此书的意义。无与伦比的精细洞察与不可复制的锐利表述，种种震撼与清洗，常常令人掩卷唏嘘，不知所所以。 2011-2012.6

突然觉得，我们国家的历史上还没有这样的艰苦思考为人生的人，康德实在是个怪异之人。看着书，觉得头疼，那种冗长严肃的思考让人的脑袋生疼，不由得精神旁逸，不知去向何方。我无论如何不能做到将自己的大脑变成机器一样的存在，可以面对这样实在、直接、艰难的思想，这可能...

中译本序 p2 初版于1781年，再版于1787年。正文 p18
于是我们就可以把一门单纯批判纯粹理性、它的来源和界限的科学视为纯粹理性体系的入门。这样一个入门将不必称作一种学理，而只应当叫做纯粹理性的批判，而它的用处就思辨方面来说实际上将只是否定性的，不是用来扩展我们...

大一暑假想彻底读纯批，一天50页，术语真读不下去，看后面忘记前面。所以我只能从二手材料读康德，发现容易理解。（一度想从邓晓芒那理解，书比纯批还厚，还细分很多点，这些是教授的主观臆断，有好也有不好，我有一种直觉：不相信一个人能从一本书充分了解作者思路）虽然叔本...

历史背景
在中国大陆的教育里面，法国是发达国家的代表，法国大革命是现代世界诞生的标志，之前完全是黑暗的封建社会，法国也是现代社会科学、民主、自由的发源地。但是实际上，英国才是现代社会的发源地。法国当时就跟中国一样，是个落后国家，被英国的强大力量所冲...

“世界是受绝对因果律支配，还是有自由意志存在？”这一直是个最终极的哲学问题。数年之前，当我与一位好友探讨世界观时，这个问题就如同解不开的谜团一般一直缠绕在我俩心间。好友猜测，世界是受绝...

邓本实际译自德文本，这里对照英文本读，纯粹是为了个人积累。
有错误欢迎批评指正，我也在学习。 第一部分 先验感性论： 1.knowledge 知识
2.intuition
直观；直觉（邓在其《康德<纯粹理性批判>句读》P203页注释一谈到“在康德的三大批判中，他只有一次直接用到intuit...

正题：存在自由的因果性（理性主义的立场）
反向假定：除了自然律的因果性之外无其他因果性→而一切【发生的事情】（发生的事情总是以某个还未发生的状态为前提，发生的事情——从【它还没有存在的状态里】，不可避免地会发生出现在这个状态，此即因果律、因果必然性）都是以...

纯粹理性批判 康德 [译]蓝公武
2006年1月12日，“我已把哲学当成此生最大的意义”写在扉页上。书签停在第305页，2011年5月21日重读并整理笔记如下。绝大部分文字并非原译文，而是对原有文字的理解后得到，仅为了方便自己的理解和记忆。 -----第一版序文 ...

[纯粹理性批判〈1〉_下载链接1](#)